

話は前日の青森へと戻りますけれど、私達は会議の後、懇親会を中座して、あらかじめ頼んであった「津軽三味線茶屋」の視察に向かいました。

◎津軽三味線茶屋

店の通路の右側はオープンな座敷、左側は「小上り」で詰めれば50人くらい座れそうな千葉では見かけないレイアウトの店でした。2階もあるらしく、やがて2階から三味線と太鼓の音が威勢よく降りてきて、凡そ1時間、祝い唄に踊りを混えて大熱演となり、フィナーレとなると客は総立ち、女店員も総出で『ラッセラ!!ラッセラ!!』のねぶた踊りの大合唱は、旅の酔客達を陶醉させてくれました。地吹雪が舞うと言う北の町の路地裏で、人懐っこく暖かい過ごし方を教えられ、都会の酒飲みは寂しすぎる・・・と思いました。

◎八戸のせんべい汁

八戸の名物は今や沢山ありますが、先ず第一番にせんべい汁があります。

せんべい汁とは、鶏醤油味、魚塩味、馬肉みそ味をそれぞれ主材として、野菜、きのこをたっぷり入れた出汁に南部せんべいを割り入れた八戸特有の料理であります。2002年新幹線が八戸まで来ると言うので、このせんべいを全国ブランドにし、八戸へ多くの客足をと開業日には1万食を無料で大盤振る舞いしてマスコミの話題を賑わせました。昨年12月全線開通では、予めB1グルメに参加し3年連続シルバーグランプリを獲得。私達の様な旅人を八戸へ途中下車させることに大成功させました。この間、試食せんべい汁3万5千食を超え、マスコミをひきつけ八戸の知名度を上げたのです。



◎八戸前沖サバ

八戸は昔からイカの水揚げ日本一の港で、私も山田湾から八戸へはイカの買い付けに毎年行っております。

八戸沖サバは、親潮の餌を求めて上る北限のサバで日本一粗脂肪の多いうまいサバと珍重され、八戸沖サバはブランドサバとし市場、料理人達に認められ、「優良のブランドシール」が貼られております。

◎東北の商いは小さな者達が集まって

今度の旅で特に感じた事は、青森、岩手併せ2百万余り、厳しく長い冬の季節の中で、この北の国の商人達は少ない所得、少ない消費力を流出させない知恵があります。小商いの人達が何百人(店)も集まって群れを作り、野菜類、肉類、水産物、漬物、佃煮に、加工食品や日用品を共販する朝市が9カ所もあり、1カ所で3万人も集まる朝市は、まさに日本一でした。

◎国道7号線の商店集落

かつて私が見た国道7号線、山形鶴岡から、酒田、遊佐、象潟、金浦、仁賀保、本庄と秋田へ続く日本海沿線は国道7号線が改修されて、旧街道に取り残された商店集落は新しい国道沿いにコミュニティセンター、共同浴場、バンガロー、土産物店、食品街、直売所を持った共販集落がにぎわっております。410号線開通に備え、小櫃、上総、小糸、清和の商店会の視察をお進めします。

◎酒蔵祭りに

今年も3月13日、神崎酒蔵祭りが行われます。人口6千人の町、2つの酒蔵へ3万5千人の人で小さなこの町はいっぱいになります。小櫃、久留里の商店会の方々の見物をお勧め致します。